

J-13

高尾山 圏央道開通に伴う反対運動の解決案  
海洋建築工学科 佐藤研究室 佐村拓郎

○高尾山

高尾山は日本が世界に誇る、小さいながら豊富な生態系と植生を持った日本有数の山である。都心から一時間ほどの、ミシュラン三ツ星、日本遺産に認定された都内で貴重な自然の1つである。ピーク時では年間登山者は約300万人にもものぼる。



○圏央道

東京都八王子市南浅川町 高尾山IC

そんな高尾山にトンネルを掘る計画が1984年に発案された。都内の渋滞緩和のため首都圏中央連絡自動車道(圏央道)を通すもので、2012年に開通した。



○圏央道が生んだ高尾山の問題

圏央道は、高尾山の自然を壊すこの計画に反対したたくさんの土地の所有者から、「公共の目的」のためなら私有地を没収しても良い。という法律のもと土地を奪い、この計画を強行した。立ち退きを余儀なくされた世帯は300にもなる。裁判でも高尾山の自然を守ると主張したトンネル付近の土地を持つおじいさんは国相手に敗訴した。

反対を押し切り、開通した圏央道だが多額の建設費をかけたにも関わらず、国交省の資料によると国道16号が3分、八王子バイパスは0分の渋滞緩和でほとんどの変化なしである。

1, 2分程度のために何10億もの費用を要したことになるため、開通後も納得いかないという声が多い。また地下水などの水資源が豊富な山にトンネルを通したことで地下水位が20mも低下した。圏央道開通により、様々な問題を誘発している状態である。

・その他の問題

登山者の多い高尾山には必然的にごみの問題が発生している。現在はごみ清掃のボランティア団体の活躍によって減少傾向にあったが登山者が増えるとイタチごっこの状況である。



高尾山 圏央道開通に伴う反対運動の解決案  
海洋建築工学科 佐藤研究室 佐村拓郎

○圏央道問題の解決案

大自然の中、大きな穴をあけてしまった圏央道は、目覚ましい経済利益がなくただ自然を壊してしまっただけの状態に見えてしまっている。

これを解決すべく、圏央道を利用した車での登山客のための玄関口を計画する。

---

景観として自然なりの景観を損ねている圏央道の外観改善と、ごみ、圏央道が壊した自然を悪化させないための機能、そして近隣地域との関連と、批判を浴びる圏央道の有効的な使い方を重視する。

自然を破壊したといわれた圏央道になぞらないような自然を尊重した新たな一帯の木造施設を計画する。

そして、東京の貴重な自然に触れるため、東京観光の目的地としてさらに賑わうような要素を建築として形にする。

---

・林業との連携

日本の林業は放置によって衰退傾向にある。木材の価格低下と管理、輸送の手間がかかることによって日本各地に放置植林地が増え、国内の林業の循環が弱くなっている。あきる野や奥多摩、八王子には手入れの遅れている杉、ヒノキの放置林が多くある。そこから木材を供給する。

圏央道を利用し、木材をこの地へ運び、近隣の山の林業の活性を、本計画とともに実行する。

水資源の保全と林業の関係

森林があることにより、山本来の保水力は真価を発揮する。しかし、圏央道トンネル建設と、一帯の木の伐採により地下水位の低下を引き起こしている。そこで植林することや、木材自体の保水力を生かしてこれ以上の水資源の減少を林業によって解決する。さらに放置林が増えると木同士の間隔が狭まり、土壌付近の下層植物に光が届かなくなる。これは土壌の給水性もまた損ねてしまうため、圏央道付近の高尾山の保水力は、木を消費することにより、山そのものの保水力を上げることが出来る。

・オーバーユース

既存の登山道のオーバーユースにより、荒れてしまっている。たくさんの方が利用するため、分散させる効果を狙う。また新たな登山道を木材で整備することで材としての木の保水力を生かすと同時に、道を外れての登山を抑制する。

・ゴミ問題の解決

ゴミ回収を行う団体の拠点や一般の登山客のボランティアの協力を仰ぐためのイベント地を設ける。また根本の改善となるよう、山中のごみ箱の設置を進める。同時に、山の分解能力を超えるアンモニアの量が、トイレがないことにより発生している。この事案もまたバイオトイレなどの設置によって解決する。